



汚染水の海洋投棄 (再考し、新たな方策を見出す努力)

9月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所
2023年9月21日(木)

今、汚染水の海洋投棄は絶対に行ってはならない。

海洋資源は、人類に残された地球上最後の最大の資源である。

日本(東京電力)の処理水の放出は、人類に残された**地球上最後の農場**である、**世界共有の海洋資源を破壊することになる恐れがある**。時間をかけて、汚染水の放出をしない場合の対策や問題をもっと**長期的に、多角的に考えるべきである**。放出を中止し、放出しなかった場合の問題を十分に検討し、その問題点を世界に明示し、それでも放出すべきかどうか広く世界に問った後とすべきである。特に、**反対国への説得も充分に行い、世界の議論とすべきである**。

海洋資源の人類の開発に対して日本人として、よく考え、世界及び人類に対して絶対に行ってはならない**蛮行である**ことの認識から出発すべきである。

日本の汚染水は、**世界の海洋生物へ影響**を及ぼすばかりでなく、世界の資源や産業活動に影響を与え、将来の世界経済や社会に大きな損失をもたらす。

汚染水には、**放射性物質や重金属などの有害物質**が含まれている。これらの物質は、**海洋生物に悪影響**を及ぼし、食物連鎖を通じて人間の健康に影響を与える。また、**海洋開発は将来の世界の経済成長を支える重要な産業である**ため、地球上の人類に与える影響は深刻である。

海洋環境の悪化により、海洋資源は減少する。

汚染水によって、海洋生物の生息地や餌場が破壊されたり、海洋の酸性化が進み、それは元へ戻せない、取り返しのつかない状態を招く。

海洋開発の安全性を阻害しても放出が必要だとの説得が必要である。

海洋資源の利用が制限され、**海洋エネルギーの開発**が遅延する。世界貿易の重要な基盤である**海洋運輸に影響**が出て**仕方がない**との結論を要する。

日本の汚染水は、世界各国から懸念の声が上がっており、**世界中の人々に海洋開発と生活への不安感**を与えていることを忘れてはならない。

ゼウスが美女のパンドラに、あらゆる災いを封じ込めて人間界に持たせてよこした**パンドラの小箱**、これを開いたため世界には不幸が飛び出した。

急いで蓋をしたので、人類には**希望だけが残された**という伝説は、**残された人類最後の希望**であり、これを日本が打ち砕くことになってはならない。